

令和5年2月9日(金)

指導者 塚田 直樹

1 単元名 物語の主題を考える～「大造じいさんとがん」

2 単元の目標

- (1) 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。
〔思考力、判断力、表現力〕C(1)イ
- (2) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
〔思考力、判断力、表現力〕C(1)エ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
〔思考力、判断力、表現力〕C(1)オ
- (4) 事実と感想、意見とを区別して書くことができる。
〔思考力、判断力、表現力〕B(1)ウ
- (5) これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって積極的に人物像を想像し、物語の主題を根拠をもって考えようとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

3 基盤

- (1) 本単元は、〔思考力、判断力、表現力等C「読むこと」〕において、(1)イ「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」を重点指導事項と位置付け、読み取ったことを基に根拠をもって物語の主題を考えていくことをねらいとしている。物語の構造と内容の把握、また叙述から読み取れることを根拠に、人物の様子や心情などを精査・解釈・共有することを通し、児童一人一人が読みを十分に深めていく。単元の終わりには、読み取ってきた人物像や人物の相互関係、情景描写から分かることを基に、物語の主題を考え、物語の世界を想像する力や、自分の考えを形成する力を高めていきたい。

文学的な文章では、書かれている語句や表現を基にして、書かれていないことを読み取り、豊かに想像する力をつけていくことが求められる。文学的な文章においては、作者が意図をもって設定した人物像が、物語の展開に大きな意味をもつ。中心人物の人物像を適切に読み取り、主要人物との関わりの中で、心情の変容を捉えていくことが、ひいては個々が主題の解釈を深めていくことにつながっていく。5年生の1月～2月の段階では、主に中心人物や主要人物の相互関係を叙述を基に捉えていく力が概ね養われている。使用教材『大造じいさんとがん』は、中心となる人物である大造じいさんと、がんの頭領である残雪との3年に渡る戦いを中心に展開する物語である。全体が四つの章から構成され、大造じいさんの計略とそれに対抗する残雪の知恵が繰り返され描かれている。計略失敗に悔しい思いをしながらも、残雪の賢さに感心し、さらには仲間を守ろうとする姿、頭領らしい堂々とした姿を見て、大造じいさんの心情は変化していく。それぞれの場面の心情を、行動や会話、情景描写などから想像しながら読み取ることができ、中心人物の人物像を考えさせることのできる教材である。

本学級の児童は、文学教材『世界でいちばんやかましい音』で、山場の部分を含め、物語の全体構成を捉える力が概ね養われている。場面ごとに出来事を要約して表したり、あらすじで書いたりする学習も行ってきた。また『注文の多い料理店』では、擬音語や比喻、色の表現などの叙述をもとに、表現の工夫の効果を具体的に想像する学習を行っている。その経験を生かし、今回の教材では、情景描写が出てくるが、表現の工夫の一つとして叙述をもとに人物の様子や心情を考えられることが期待される。さらに、物語教材に込めた作者の想いを、人物の心情の変化や物語全体の内容から想像する学習も行ってきた。以上のことから、物語全体を通して、根拠を基にしながら、主題を考えることができると期待できる。

本校国語科では、①内容の把握・検討②精査・解釈③考えの形成④共有の4つの場面を探究的な学習過程として取り組んでいる。学び合いにおける教師の働きかけとしては、子どもたち一人一人が思考し、自分の考えをもったときに、さらに、それを他者に伝えたり、他者の考えを聞いて自分のそれと比べてみたりすることが、より良い考えを作り上げていくことにつながると考えている。こうした他者との学び合いを繰り返す中で、個の思考の変容や深化が期待できるが、より学び合いの場を有効にはたかせるために、個別最適な学びの場を設けながら、子どもの考えを掘り下げるはたらきかけを大切にしている。

(2) 第1次では、教師の範読から、学習の見通しをもてるようにし、物語の主題に迫るという学習課題を提示する。物語教材には、作者が込めた思いが様々な描写を基に散りばめられている。人物の様子や行動、情景描写などの表現にこめた思いを読み取り、物語の主題に迫らせていきたい。

第2次では、登場人物の中から中心人物を特定し、人物同士の相互関係を捉える。中心人物の定義をおさえながら、中心人物に関わる人物を全て確認していきたい。大造じいさんと残雪どちらも中心人物か悩む児童も想定されるが、中心人物の定義と叙述をもとに大造じいさんと設定していきたい。そのように設定することによって、大造じいさんの様子や心情がいたるところに散りばめられていることが理解しやすくなる。また、人物の関係性を捉えるために、図や矢印などの記号を用いながら、相互関係を理解できるようにする。人物像を確認した後は、物語の全体構想を把握し、場面ごとのあらすじを考える学習を行う。まずはあらすじの定義を理解し、中心人物である大造じいさんが何をする場面であるのか、一言でまとめることができるようにする。物語の中でキーワードとなる計略と、残雪への思いの変化が分かるようにあらすじを考えていきたい。構成とあらすじを捉えた後は、山場（クライマックス）の部分から、なぜ大造じいさんの気持ちが大きく変わったのかを考える。『世界でいちばんやかましい音』で物語には山場の部分があることをおさえている。山場の定義としては、中心人物の気持ちが大きく変化した部分であると子どもたちと定義づけをしている。ここではあらすじを基に、残雪への思いが変化していることに気付く児童が多くいることが想定される。しかしどんな思いからどんな思いへ変化しているのか、その根拠を叙述を基にしながら考えることができるように促していく。主題に迫るという目標に向かうためには、中心人物の心情の変化を捉えることが主題に迫るうえでは欠かせないことを理解させていきたい。この物語の特徴として、情景描写が場面ごとに散りばめられていることが挙げられる。情景描写とは、風景を通して人物の様子や心情を遠回しに表現しているものである。ここで言う情景描写とは、中心人物のやる気やすがすがしさを誇張的に表すものである。前時間に大造じいさんの気持ちの変化を読み取っているため、情景描写の主語が、大造じいさんだと理解できる児童が多く見られるであろう。情景描写から分かる人物の心情の移り変わりを基に、主題に迫ることも十分できると考えられる。

第3次では、いよいよ物語の主題に迫っていく。人物の相互関係や、物語の構成、人物の気持ちの変化、情景描写等の学習から、物語の主題は何であるのかを自分なりに考える時間である。しかし、いきなり子どもに全てを任せると手が止まる児童もいることが想定されるため、まずは教師が提示する主題カード（親切、勇気、友情、家族愛等）から全員で一枚選び、その主題が適切かどうかを考える。例えば家族愛を選んだ場合、物語の主題として適切かどうかを全体で考えるということになる。ここまでやってきた学習を基に、家族愛ではないことに気付く児童が大半であろうが、きちんと根拠を基に違うと説明させることによって、主題を確定する上で、自分の考え寄りにならないようにしていきたい。道徳の裏面に内容項目が載っている。それも参考にしながら、自分の選ぶ主題を一つ決め、根拠に基づき意見交換をさせるようにする。自分の考えが正しいのか、しっかり叙述をもとに根拠を考えられているかどうかを見直し、まとめられるようにするためである。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の書類とその特徴について理解すること。 (1) カ	①登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えようとしている。 C(1)イ ②「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしようとしている。 C(1)エ ③「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめようとしている。 C(1)オ	これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって積極的に人物像を想像し、物語の主題を根拠をもって考えようとしている。

5. 展開と評価計画（全8時間）

次	時	○主な学習活動	◇評価規準 ◆評価方法
第1次	1	○学習課題をつかみ、学習の見通しをもつ。 ・物語を範読し、物語の感想を伝える。 ・人物の相関関係や、物語の構成、人物の気持ちの変化、情景描写等の学習を経て、物語の主題に迫るという学習の目標を確認する。 ・主題の定義を理解する。	
第2次	2	○物語の中心人物、主要人物を確認し、人物同士の相関関係を捉える。 ・中心人物、主要人物の定義をおさえ、物語の登場人物を確認する。 ・中心人物に大きく関わる主要人物をランキングする。 ・中心人物と主要人物の関係性を把握する。	◇思・判・表①② ◆発言、ノート、タブレット (第2時)
	3	○物語の全体構想を把握し、場面ごとのあらすじを考える。 ・あらすじの定義を確認する。 ・全体構想を、年、季節、あらすじで捉える。 ・場面ごとのあらすじを「中心人物が○○する」という一文で考える。	◇知・技 ◆発言、ノート、タブレット (第3時)
	4	○山場（クライマックス）の叙述から、なぜ大造じいさんの気持ちが大きく変わったのかを考える。 ・山場の部分をおさえる。 ・なぜ大造じいさんの気持ちが変わったのかその根拠を考える。	◇思・判・表③ ◆発言、ノート、タブレット (第4時)
	5	○情景描写の定義を理解し、各場面の情景描写を見つけ出し、それらの描写の人物の様子や心情を考える。 ・情景描写の定義を理解する。 ・各場面の情景描写を探し、人物の様子や心情を考える。 ・なぜ作者は情景描写で表現したのかを考える。	◇思・判・表③ ◆発言、ノート、タブレット (第5時)
	本時		
第3次	6 7 8	○主題に合うカードを選択し、その理由を考え伝え合う。 ・主題の定義を確認する。 ・教師が提示する主題カード（友情、勇気、助け合い、家族を愛する、人は買われる、動物を愛する、命を大切にする等） ・全員で一つのカードについて議論する。 ・人物の相関関係や構想表からわかる中心人物の気持ちの変容、情景描写等を手がかりにし、道徳の教科書に書かれている内容項目も確認しながら主題を考える。 ・自分の考えた主題を伝え合う。	◇主体的に学習に取り組む態度 ◆発言、ノート、タブレット、行動観察 (第6～8時)

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

情景描写の定義を理解し、各場面の情景描写を見つけ出し、それらの描写の人物の様子や心情を考えることができる。

(2) 展開

学習場面と児童の取り組み	教師の支援と評価
<p>1. 情景描写の定義を理解し、第1場面の情景描写を見つけ、人物の様子や心情を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「秋の日は美しくかがやいている」・・・前述に大造じいさんの意気込みが描かれているから、大造じいさんが成功することをわくわくしているのだと思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>場面ごとの情景描写を見つけ、人物の様子や心情を考えよう。</p> </div> <p>2. 第2場面～第4場面の叙述の中から、それぞれ情景描写を見つけ出し、人物の様子や心情を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あかつきの光が、小屋の中に、すがすがしく流れこんできました。」・・・前述に大造じいさんの様子がかかれてあるから、この文は情景描写じゃないかな。すがすがしく流れこむという描写は、大造じいさんのやる気を表していると思う。 ・「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」・・・前述に大造じいさんの台詞があるから、大造じいさんの次こそ成功させてみせるといふ気持ちが表れていると思う。 ・「らんまんとさいたすももの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。」・・・前述は残雪の様子が書かれてあるから、この文は残雪の気持ちを表していそうだね。 ・確かに前述は残雪だけれど、ここまでずっと大造じいさんの心情が表れていたから、今回も大造じいさんの心情じゃないかな。 ・雪のようにはらはらと散ったのは残雪の羽だから、この文の主語は残雪だと思うよ。 ・みんなの意見を聞いて、最後の場面の情景描写は大造じいさんだと思ったよ。残雪の様子を見た大造じいさんのすがすがしい気持ちが表れているのだと思う。 <p>3. めあて対するふりかえりを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初1人で考えていたが、友達と意見をおかわす中で、自分の見つけた情景描写は的外れだったと思った。友達が説明してくれたおかげで、最後の場面の情景描写は残雪だと考えていたが、大造じいさんのすがすがしさを表していると納得ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1場面の叙述の中から教師が提示した2択の文章で情景描写を考えさせることで、定義と関連させた情景描写の捉え方ができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1人で考えたり仲間と考えたりしながら、各場面の情景描写をもとに人物の様子や心情を考えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各場面の情景描写は一つずつであると伝えることで、より情景が表れている一文を根拠をもとに考えられるようにする。 ・見つけ出した情景描写が人物のどんな様子や心情を表しているのか、言葉の意味など、タブレットや辞書で調べながら、その根拠を明らかにするよう促す。 ・大造じいさん、残雪、はやぶさ、おとりのがん等、物語に関係のある人物が複数存在するため、情景描写と人物が本当に適切かどうか揺さぶることで、多面的な見方で人物の様子や心情を捉えることができるようにする。 ・最後の場面の情景描写は、前述が残雪の様子を表しているのだから、残雪の様子や心情を表していると考えられる児童も少なからずいると考えられる。大造じいさんと考える児童と討論をすることで、より根拠をもって人物の様子や心情を捉えることができるようにする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[思考・判断・表現] C (1) イ 見つけ出した情景描写から、人物の様子や心情を考えることができる。 (発言・ノート・タブレット)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のふりかえりを書くことで、次の学習の学びへの意欲を高めたり改善を図ったりできるようにする。

8. 評価

A: 十分満足できると判断される状況	B: 概ね満足できると判断される状況	C: 支援を要する状況への手だて
<p>見つけ出した情景描写から、人物の様子や心情を考え、友達と意見交換をした際に、叙述や言葉の意味に基づいた意見を友達に説明したり、受け止めた考えをもとに修正している。</p>	<p>見つけ出した情景描写から、人物の様子や心情を考えている。</p> <p>Aになるための手立て 考えた人物の様子や心情を友だちと交流させたり参考にしたかったことを加筆修正させたりする。</p>	<p>情景描写が見つけ出せない児童には、1人ではなく複数で考えさせたり、風景や景色などが書かれてある叙述を一緒に見つけたりする。人物がつかめない児童に対しては、友達の意見を聞いたり先生に聞いたりしながら、自分なりの意見を考えることができるようにする。</p>

